

## 10. 呼吸器系の疾患（インフルエンザ、鼻炎を含む）

### 文献

豊福伸幸. 気管支喘息に対する鍼治療の効果の検討 運動誘発性喘息を対象として. 明治国際医療大学誌 2011; 5: 13-24. 医中誌 Web ID: 2012149800

#### 1. 目的

運動誘発性喘息に対する鍼治療の有効性の確認。

#### 2. 研究デザイン

RCT-crossover

#### 3. セッティング

明治国際医療大学

#### 4. 参加者

明治国際医療大学の学生で気管支喘息の既往のある 41 名の内、運動負荷試験を実施し、実施前から実施後にかけて 1 秒量変化率が-15%以上の低下を認め、運動誘発性喘息と診断された者 18 名(平均年齢 22.7±2.5 歳)。

#### 5. 介入

Arm 1: 鍼治療期間(4 週)、次いで wash-out 期間(4 週)、その後無治療期間(4 週)。鍼治療は週 2 回を 4 週、計 8 回。鍼響後 10 分間の置鍼術。使用経穴は左右の中府(LU1)、尺沢(LU5)、太淵(LU9)、三陰交(SP6)、太溪(KI3)、肺兪(BL13)、脾兪(BL20)、腎兪(BL23)、及び中脘(CV12)、関元(CV4)。

Arm 2: 無治療期間(4 週)、次いで wash-out 期間(4 週)、その後鍼治療期間(4 週)。

#### 6. 主なアウトカム評価項目

運動負荷後の 1 秒量変化率(Arm1 及び Arm2 それぞれの鍼治療期間群、無治療期間群を平均して比較)。

#### 7. 主な結果

Arm1 において 2 名の脱落あり。最終的な解析対象は 16 名(鍼治療期間群、無治療期間群各々 16 名)。鍼治療期間群のアウトカム値は治療期間前後で平均 5.5±9.9%改善。無治療期間群のアウトカム値は無治療期間前後で平均-2.7±8.6%悪化。鍼治療群は無治療群に比べて運動負荷後の 1 秒量変化率は有意に改善した(P<0.05)。

#### 8. 結論

運動誘発性喘息に対して、気管支喘息に有効とされる経穴を用いて鍼治療を行った結果、気道閉塞の指標となる運動負荷後の 1 秒量変化率は無治療群に比べて有意に改善した。

#### 9. 鍼灸医学的言及

鍼治療が好酸球性気道炎症を改善し、運動負荷に対する気道過敏性亢進が改善。

#### 10. 論文中の安全性評価

記載なし。

#### 11. Abstractor のコメント

本研究は運動誘発性喘息に対して一定の治療期間を設定し、継続的な鍼治療の有効性を示した貴重な研究である。また、少ないサンプルサイズの問題を改善するため、クロスオーバーデザインを採用した点、主観的アウトカムでなく客観的アウトカムを改善させた点においても高く評価できる。しかしながら、評価者のブラインド、安全性の評価などに関して言及されていない点が残念である。また今回対象となった 18 名は平均年齢も低く、年齢層も偏っていたため、幅広い年齢層が対象となっても同様の結果が得られるかどうかに関心が寄せられる。今後さらなる改善を加え、よりよいデザインで追試が行われることを望む。

#### 12. Abstractor and date

大川祐世 2016.9.23